

平成29年度第1回豊後高田市総合教育会議議事録

日 時 平成29年11月29日（水）10:00～11:30

場 所 高田庁舎本館3階 防災対策室

出席者 豊後高田市市長 佐々木 敏夫

豊後高田市教育委員会 教育長 河野 潔

委 員 宮崎みゆき

委 員 大嶽由美子

委 員 松田高明

委 員 高井郁朗

事務局

市総務課長 佐藤之則

教育庁総務課長 安藤隆治

教育庁学校教育課長 小川 匡

教育庁文化財室長 板井 浩

教育庁総務課総括主幹 馬場政年

市総務課総務法規防災係長 近藤 毅

1. 開会

○佐藤（市総務課長）

みなさん、こんにちは。市総務課長の佐藤です。当面の進行をさせていただきます。よろしく申し上げます。

本日の出席者は、佐々木市長、教育委員会から、河野教育長、宮崎委員さん、高井委員さん、大嶽委員さん、松田委員さん、合計6名全員出席であります。

ただ今から、平成29年度第1回豊後高田市総合教育会議を開催いたします。

開会にあたりまして、今回の会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」で、原則公開するという事となっておりますので、皆さんご了承いただきますようお願い申し上げます。

それでは、はじめに佐々木市長より、ごあいさつ申し上げます。

2. 市長あいさつ

○佐々木市長

皆さん、おはようございます。今回、総合教育会議が、こうして皆様の出席のもとで開かれますことを喜んでおります。

「子育て」、これは我々避けては通れない、真正面から取り組んでいかなければと思っております。そういう意味では、教育委員会の皆様のお力をいただいておりますことに対し

しても、衷心より感謝と御礼を申し上げます。

おかげをもちまして、教育レベルは県内トップレベルを継続しておりますし、スポーツでも全国大会出場、そして、素晴らしい成果もいただいていることも、ご案内のとおりであります。

また、今までの教育の取組で話題になっております、学びの21世紀塾、大分県でもこの学びの21世紀塾を県下で広め、そして、大分県全体の学力も九州トップレベルまで上がってきたということは、大分県でも素晴らしい成果をいただいている、そういう意味では、豊後高田もトップレベルとはいえ、みんなのレベルが上がってきたということでは、安閑としてはいられない、そういう意味で、これからの取組も、さらにみんなで力を合わせて取り組んでいかなければならないと思っております。

そういう中で、私共、今回、教育を「豊後高田で受けさせたい」と思えるような取組をとということで、従来の教育を継承しながら一步前へ、そういう意味では、中学までの給食費を無償化、そして、高校までの医療費を無料にするという、教育環境の整備にも取り組んでいくつもりであります。

そういう意味で、皆様方のお力をこれからもお借りして、子どもたちを健康で、素晴らしい子どもたちに育てていきたいと思っておりますので、皆様方のお力を、是非お借りしたいと思っております。

今日の会議で、皆様方のご意見をしっかり述べていただきまして、豊後高田の教育を我々みんなで守っていききたいと思っておりますので、よろしくご指導のほど、お願いいたします。

3. 協議・調整事項

○佐藤（市総務課長）

それでは、早速ですが、協議・調整事項に移ります。

会議は、豊後高田市総合教育会議運営要綱第2条第3項に基づき、市長が議長として議事進行を行うこととなっています。佐々木市長、よろしく申し上げます。

○佐々木市長

それでは、議長を仰せつかりましたので、会議を進めてまいります。

まず、「児童・生徒の学力に」について、事務局から説明をお願いします。

○小川（教育庁 学校教育課長）

皆さんおはようございます。学校教育課長の小川です。どうぞよろしくお願いします。

それでは、私のほうから「児童・生徒の学力について」ご説明をさせていただきます。

本市では、「教育のまちづくり」をスローガンに掲げ、「夢をえがき、実現できる子どもの育成をめざし、明日の豊後高田を担う子どもたちを育てる」ということで、学校、地域が一丸となって取り組んでおります。

これから迎える変化の激しい時代を生き抜く子どもたちに、知識・技能、そして、思考力・判断力・表現力、学習意欲の、「学力の3要素」をバランスよく育成することが必要となります。

本市の児童・生徒の学力向上の取組についてですが、まずは、子どもの学習状況をしっかりと把握をしまして、個に応じた指導を行っているところであります。

今年度の全国、大分県の学力調査の結果に基づき、現在、各学校では、結果分析をいたしまして、課題解決に向け、きめ細やかな指導を行っているところであります。

それでは、資料に基づきまして、説明をさせていただきます。

資料の1ページをご覧ください。まず、全国学力調査についてですが、教科では国語、算数、数学とあります。知識を問う問題と、活用を問う問題A、Bという問題があります。

また、学習意欲や学習方法、生活習慣等を調査する問題、質問肢というものがあります。

それでは1ページをご覧くださいと思います。

「伸ばそう！高田っ子の学力と豊かな心」ということで、これは、小学校の分析をしたものであります。

今年度の4月18日に実施され、対象は小学校6年生、中学校3年生であります。

この結果に基づいて、本市の子どもたちの素晴らしいところということで、質問肢における、特に顕著になった部分について説明をさせていただきます。

まず、黄色の部分ですが、10番の「将来の夢や目標を持っていますか」という問いに対して、肯定率が91.5パーセントということで、全国平均よりも5ポイント以上の結果を出しています。

また、「先生はあなたのよいところを認めてくれますか」という問いに対しても、本市の調査結果は、全国よりも上回っているという状況であります。

また、「授業において自分の考えを発表する機会を与えていますか」ということですが、これに対しても、全国平均を上回っておりますので、主体的に授業に参加している状況が見られます。

また、学力、豊かな心を育むものとしたしまして、自己認識、社会性、生活・学習習慣、学習活動等にも、良い結果をいただいております。

学習活動の中で下線を引いている部分については、まだまだ課題が見られるということですので、このへんについて、今学校で改善をしているところであります。

次のページ（2ページ）をご覧ください。

各教科における調査結果であります。（国語）内容については、良好であります。領域別に見ますと、読むことについて、若干課題が見られるということですので、こちらについては、授業の中でしっかりと読む力をつける授業改善を行っているところであります。

次のページをご覧ください、小学校の算数であります。こちらは、内容、領域とも良好であるといえます。しかしながら、まだまだ課題が見られますので、その点については、伸ば

したいところ、こういう問題に取り組んでいけば、課題のところは解決できるであろうというのを示しております。

次に、中学校であります。質問肢の状況であります。まず、37の「学校で好きな授業があります」という問いに対して、肯定率92.6パーセントということで、かなり多くの生徒が授業に主体に参加できている状況であります。

また、「人が困っているときは進んで助けています。」「人の役に立つ人間になりたいと思います」という問いに対しては、全国平均を大きく上回っております。

さらに、自己認識、社会性、生活・学習習慣、学習活動等についても、良好であります。「予習」というところに課題が見られますので、この点については、各学校で復習、家庭学習をどのように取り組んでいくのかということ、今取り組んでいるところであります。

次に、中学校の国語であります。

こちらについては、領域で、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化等」に課題が見られます。そのような課題を解決するために、類似問題等を行いまして、付けなければいけない学力というのがありますので、年度内にしっかりとこの課題については解決をしていきたいと思っております。

数学については、これについては「図形」、「関数」、「資料の活用」と、課題が多くみられますので、こちらについては、授業の中でしっかりと解決できるような授業改善をしていきたいと考えております。

次に、小・中学校で共通するものですが、改善策として大きく5点を挙げております。

まずは、「考える時間と発言する場を意図的・効果的に設定しましょう。」ということで、大分県教育委員会から「新大分スタンダード」等も出されておりますので、それに則って授業改善をしているところであります。

次に、「1時間、1時間の授業における自己の成長を実感させましょう。」ということで、「分かる授業、楽しい授業」をやっというこ、今取り組んでいるところであります。

隣のページに、豊後高田方式の指導案というのを載せております。

その指導案に基づいて、授業を組み立てていくということで、全ての教師がこの指導案のもとに進めていくということで、今、各学校で、全教職員を挙げて実践をしているところであります。

次に、「いいところを認めましょう。見つけましょう。」ということで、「児童生徒に自己存在感を与えること」、「共感的人間関係を育成すること」、「自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること」、この3つの視点を持って授業に当たりましょうということで進めております。

4点目に「難しい内容でもわかりやすく教えるのがプロの教師の力。」ということで、教材研究をしっかりと行いまして授業に臨むことを今心がけております。テストやプリント類のやったものは、必ず見直しをして、そこで解決できるように、各学校ファイリング等を

しっかり行うように取組をしているところであります。

それでは次に、資料②ということで、大分県学力調査についてです。

こちらは、対象が小学校5年生と中学校2年生です。

小学校では、国語、算数、理科、中学校では、それに加え英語、社会と5教科すべての教科になっております。

1ページの、質問肢であります、「私は家の人をかけがえのない存在だと思っています。」という問いに対しては、全国平均を上回っておりますし、「近所の人に会ったときは、あいさつをしています。」と、これは全国平均よりも10ポイント上回っている。さわやかあいさつ運動を推進しておりますので、子どもたちから大人へしっかりあいさつができていくということが、この調査で見受けられます。

それでは、各教科の状況ですが、小学校の国語です。こちらにつきましては、「読むこと」に課題が見られます。しっかり読み込んで、理解・読解力を付けるということが課題であるということですので、ここに力を入れながら授業改善を図っていきたいと考えております。

次に、算数ですが、すべての領域において良好であるということですので、これからも、今の行っている授業をベースに、さらに子どもたちが、楽しく、そして主体的に学べる授業を展開してまいりたいと思っております。

次に理科ですが、理科においてもすべての領域において良好ということがありますので、これについても、今の授業を中心に、自然に目を向け、生活に生かしたものにしていきたいと考えています。

次に、中学校であります。資料は5ページになります。

質問肢で「自分なりに自信を持っていることがありますか」という問いに対して、こちらについても全国平均を上回っておりますし、こちらも小学校と同じく、あいさつについても全国平均を大きく上回っております。87パーセントという結果が出ておりますので、成長に応じて、なかなかあいさつができないという地域の方の声もありますが、子どもたちは会ったときにあいさつをしているということで、こちらについても、さわやかあいさつ運動の成果が出ているのではないかなと思っております。

それでは教科の分析ですが、まず国語ですが、こちらについては小学校と同じく「読むこと」ということが課題となっておりますので、こちらについては小中連携をして、課題解決に向けて取り組んでいきたいと考えております。

次に社会ですが、こちらについては、「古墳時代」、「飛鳥、平安」と、古い時代の内容について、課題が見られるということでもありますので、教育課程に位置付けられた内容については、しっかりと理解をさせるというのが学校の使命でありますので、こちらについては復習を含めながら改善を図っていきたいと考えております。

次に数学です。こちらについては、「図形」というところで、つまずきがありますので、個別指導を行いながら理解を深めていくということで、各学校、授業をはじめ、放課後、家庭学習等で補充して、理解を深めていきたいと考えております。

次に理科ですが、「地球」というところで、私たちが住んでいる身近なものですが、これについて理解に課題があるということです。こちらについても、授業を中心に組み込んでいきたいと思いますが、自然環境というところで、身近なものですので、視点を当てながら、授業と合わせて組み込んでいきたいと考えております。

次に英語ですが、学校では「ルームイングリッシュ」ということで、「英語の時間は英語で行いましょう。」ということで、今展開をしております。課題としては、「長文の読み取り」というところでもありますので、授業の中で、読み取りについては、毎時間できるような授業展開をしていって、改善を図っていきたくて考えているところであります。

学習状況について、説明をさせていただきましたが、すべての教職員が、子どもたちにしっかりと力をつけていきたいという考えのもとで今、取組をしておりますので、年度内には付けなければいけない学力というのがありますので、しっかりと組み込んで、教育委員会も学校とともに、いっしょに勉強しながらやっていきたいと考えております。以上です。

○佐々木市長

ありがとうございます。

事務局から説明をいただきましたので、皆様方から、ご意見をお願いします。

大嶽委員から何かありませんか？

○大嶽委員

学力については、長い間、県下のトップクラスで、取組がいい結果が出ていると思っています。これはやはり、市全体での教育の取組というのがとても大きいものだと思います。

1つの学校や、1人の教師だけの力ではなかなか難しいところですが、市の大きな方向性に基づいて、教育委員会が方向性をしっかりと出して、教職員が同じ方向で取り組んでいるということが、この結果を出してくれているのかと思います。

一番感じているのが、やはり、学力を支えるものというのに、「学習意欲」というのがあると思うんですけども、子どもたちの学習意欲がとても高まっているというのが、結果として出ているのが、とてもうれしいです。

やはり、自分に対して自信を持ったり、学習に対して楽しいとか、わかるようになったというのが、学習意欲がすごく高まったというので、それが学力の数値の面でもいい結果が出ているということで、学習意欲を伸ばすというのには、やはり「分かる」ということと、「認められた」ということを、これからも力を入れて取り組んでもらいたいなと思っています。

○松田委員

豊後高田がまず先発して学びの21世紀塾とかいろんなものを整備していただいて、それが成果が出てきたということで、県下でも豊後高田を目標にということで、真似されるぐらい全体が上がってきている状況もあると思います。

ただ、学びの21世紀塾にしても何にしても、豊後高田ができているからうちもできるんだと、安易にできるんだと、安易にできることではないと思います。それぞれの部署で、それぞれの方が非常に努力をしていただいて、これが維持できていると思いますので、市の方からもぜひサポート体制と言いますか、それを維持していくためにはサポートが絶対必要だと思いますので、サポートを是非お願いして、先発隊ですから、さらに伸びていくように、ご尽力いただいたらありがたいと思います。

○高井委員

市長がよくおっしゃる学力が県下で最下位から2位のところからトップに立ったという、これは本当に奇跡的なことであって、教育長が高田中学校時代にそういうふうにつなげていったと私は聞いています。本当に素晴らしいことで、これがいろんなところで、さわやかあいさつ運動とか、いろんないい影響が出ていると思います。

この前もうちに業者が来て、よそから来た人なんですけれども、豊後高田の人はあいさつをしますねと言われて、「どんな人がしましたか？」と聞くと、「小学生も、中学生も、大人もしますね」と、びっくりしていましたが、それぐらい市内全体があいさつする、さわやかあいさつ運動の成果だと思っています。

○宮崎委員

学びの21世紀塾には子どももお世話になった。だんだん内容も良くなっている。(大学受験も)高田高校もだんだん難関校に合格するお子さんも増えている。結果が出ているのでいいことだと思う。

○河野教育長

学びの21世紀塾が始まって、今年で16年目になります。

この、全国調査のときに質問肢がありまして、民間の通塾についての調査があるんですが、大分県の小学生の41.8パーセントが学習塾に通っている、中学生では50.1パーセント、国では47.8パーセントが小学生で、61.1パーセントが中学生で学習塾に通っている。豊後高田市は小学校で5.7パーセント、中学校で15.6パーセントと、もう本当に、他市町村に比べると、学びの21世紀塾はこれに入っていないので、もう雲泥の差で、ここにも学びの21世紀塾の機能というのが、よく表れているなというふうに思いました。

それから2点目は、先般PISA(OECD生徒の学習到達度調査)の調査結果、特にこの中で、これまでずっと日本が低迷しておりましたけれども、もちろん調査期間そのものは2015年の高1ですから、ちょっと前のデータになりますけれども、今回その調査結果も、日本は世界で第2位という結果が出ておりました。日本の子どもたちの解決能力ということだったと思いますが、2位という中で、国際的な流れ、全国の流れ、大分県の流れの中から豊後高田市の子どもをこれからどう育てていけばいいのか、そういう道筋が見えてく

るような、そんな気がしているところです。

合わせて、来年度、英語が具体的に小学校3年、4年、5年、6年に、試行期間でありますけれども、導入されていきますので、JET - ALTを1名加配ということで、県、国の方にも申入れをしているところであります。市長のほうにもお力添えをお願いしたいと思っています。

○佐々木市長

今の話の中にありましたが、今の県下レベルが接近してきているということで、新たな取組が、教育長ありましたら。

○河野教育長

先ほど申し上げましたが、1つには、JET - ALTを導入して英語力を上げたいというところと、もう1つは、加配の職員の増員を県の方にもお願いをしているところでありますけれども、豊後高田市は、来年度も指定研究を進めていくつもりであります。

その指定研究の中核になる教職員を増やしていきたいと思っておりますし、これもまた、かなりの予算を伴うところでありますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

それから、「教職員の資質を上げる」、「教育力を上げる」ということで、現在、多くの取組を進めているところであります。先ほど課長の説明の中でもありました、「新大分スタンダード」、そういう「主体的で、対話的で、深い学びをどう構築するか」ということを、さらに掘り下げて、授業の中にしっかりと生かし、授業改善を進めていくということ、現在、大きな柱にして、特に、中学校が、やや活用力に問題があるというふうに分けておりますので、その中学校のところ、この「新大分スタンダード」をしっかりと根付かせていきたい、こう思っております。以上です。

○佐々木市長

委員の皆さん、また、教育長の思いも聞いた中で何かご意見ありませんか？

○高井委員

私の個人的な考えですけど、教育委員会でも申し上げたことがあるんですけど、英語について全体的な流れとして、今、会話の方にほとんど重点は移っている。これはいいと思うんですけど、もちろん、英会話ができないと外国人と話ができないから、それはそれで否定はしないんですが、全国的、大分県内でも、そういう流れになっていると思うんですけど、個人的な考えでは、資料にも長文の読み取りが、ちょっと点が低いという結果が出ていますけど、やはり一つひとつの文は、どんなに長い文でも、主語と述語と、主語と述語と目的語、主語と述語と目的語、補語の文という5つの構文があると思うんです。どんなに長い英語になっても、どの文型かに入るという、5つのうちのどれかに入る、英語というのは作りにな

っていると思うんですけど、そのへんをちょっと理解させる教育にすれば、私の考えですけど、全国的に、これが、そういう教育をしていないから、ここ隙間だと思うんです。

これをもう一度見直せば、人がやらないところを豊後高田市がやれば、少しいい影響が出るんじゃないかなと思っています。

○河野教育長

今回の調査結果でも、英作文で無回答率が30パーセント、全県であったんですね。ですから、そこは今、委員さんが言われた、少しおろそかにしていた部分だろうと思っておりまして、英語部会の中でも、しっかりとその辺を押さえて、ただ会話重視ではなくて、文法的な事項を含めて指導するという点については、今話をしているところでもありますので、実践の中で生かしていきたいと思っています。よろしくお願いします。

○大嶽委員

学力の内容について、ちょっと考えたときに、これは以前から感じていたんですけど、国語の面で言うと、「表現力」といって、例えば大勢の前で自分の考えを堂々と述べたり、しっかり覚えて発表したりとか、そういう力はもう豊後高田の子どもたちは本当に素晴らしい力を発揮して、いろんな場面で活躍しているのを目のあたりにして、とてもうれしく思っていますが、調査の結果を見るとわかるように、読む力というのがなかなか伸び悩んでいます。以前と比べると、読むことに時間数が少なくなったというのもあるんですが、これが一番ベースになるので、ここのところをしっかりと押さえていくという、学習内容に力を入れてもらうといいなと思っています。

一つには、学校だけで読む力を伸ばすのは難しいので、整備していただいている図書館と連携して、どのように、子どもたちに読むことに楽しんで取り組んでもらうかということ、また、市としても図書館との連携を図りながら進めていただけたらいいなと思っています。

○河野教育長

私どもも、「読む、読解力」というところについては課題だと思っておりまして、今、市の方で重点的に取り組んでおります「調べる学習コンクール」というものがあります。

文学作品を読むと同時に、また、自分で研究テーマを決めて、それに基づいた説明的な文書又は研究論文などを読んで、そして自分でまとめていくという「調べる学習コンクール」への参加ということで、現在、一人が、小学生でも多い子どもで原稿用紙で30枚から50枚ぐらい書いて、そして審査をしていくんですけども、将来的には、高大（高校 - 大学）接続の中で、そういう力が求められているということで始めているところでもあります。

12月になりましてから、このコンクールの発表会もいたしますけれども、そういう現代的な社会から求められている力というのも、付けていきたいと思っていますので、委員さんのお力添えもお願いしたいと思っています。

○佐々木市長

ほかにないですか。

○松田委員

先ほど宮崎委員もおっしゃっていましたが、豊後高田の子どもたちも学力もずいぶん上がってきて、高田高校との連携ももちろんでき、難関大学等にも、前よりもずいぶん合格できるようになってきたということでしたけども、学校に行き行って授業等を見させていただいて、習熟度授業もやっているのですが、学校の中で極端に差をつけて授業をやるというのは、なかなか難しい問題があるのだらうと思うんです。極端な差がないように見受けられます。

幸いに学びの21世紀塾がありますので、伸びる子どもをまずもっと伸ばせる方法を、ぜひ学びの21世紀塾でも考えていただくと。あらゆる段階の子どもたちをもちろんサポートしていかなければいけないんですけど、伸びる子どもたちをさらに伸ばす方法を、豊後高田市の場合はなかなか塾等もそろっているわけではないので、ぜひそういうのを考えていただけたらと思います。

○佐々木市長

ありがとうございます。教育長どうぞ。

○河野教育長

これは、豊後高田のずっと課題でもありましたので、現在、各学校から推薦された生徒を中心として、20名の特別講座を設けまして、そして、将来難関大学を目指すというように一つのテーマにして、英・数・国で今授業をしているところであります。

まだ、緒についたばかりですので、これからもっと充実をしていかなければならないと思っています。

○佐々木市長

それでは、委員の皆さんから意見もいただきましたので、しっかりとした取組をやっていたいただきたいと思います。

次に移ります。「学校トイレの洋式化」について、事務局より説明をお願いします。

○安藤（教育庁総務課長）

教育委員会総務課長の安藤でございます。

私からは、協議・調整事項の2番目であります「学校トイレの洋式化について」ご説明を申し上げます。資料の1ページをご覧ください。

学校施設に関する今後の大きな課題といたしましては、多くの施設が老朽化しておりま

して、施設の長寿命化の対策が課題となっております。現場の先生方に伺った中で、質的な要素で改善が最も必要とされたのが、2015年の小中学校のアンケート結果によりますと、トイレの改善というのが59パーセントを占めまして、最も多い回答となっております。

この原因と考えられますのが、2ページ目を開いていただきたいんですが、昨年、小中学校のトイレについて全国調査が行われまして、洋便器率が43.3パーセントと、まだ半数に満たないということがわかってまいりました。また、和便器よりも洋便器の比率を高めていきたいと考えている自治体が85.2パーセントと、非常に高い状況となっております。

しかしながら、厳しい財政状況の中で、こういった整備が、着手について二の足を踏んでいる現状でございます。次に3ページをご覧くださいんですが、これは都道府県別の調査結果となっております。大分県の洋式化率は45.0パーセント、全国平均の43.3パーセントよりも若干であります、高い状況となっております。

次の4ページにつきましては、大分県内の市町村別のデータでございます。豊後高田の率は45.9パーセント、学校間で若干の差がありますけれども、県平均とほぼ一緒の状況となっております。5ページは内容が重複しますので省略しますが、次の6ページの一番上の表をご覧ください。これは、「学校トイレ研究会」がまとめた資料でございます、2016年、昨年の全国自治体アンケートの結果でございます。

学校施設は、災害時の避難所ということで、そういう一面がありますので、常設のトイレに絞った今後の必要な改善点ということで、「便器の洋式化」というのが70.7パーセントと最も高く、全国的に意識が高まっていることが伺えます。

災害時の避難所は、子どもだけに限らず高齢者、障害者などあらゆる人が避難するわけがありますので、その中で、熊本地震、東日本大震災等の避難所でお伺いすると、最も致命的な点が、トイレが和便器であるということになっていきます。

もう一点につきましては、和便器であります、菌の感染リスクが高まるという点でございます。現状、いわゆる床がタイルで、水で流す方式の湿式清掃を行うトイレにつきましては、中ほどの図を見ていただければわかりますが、和便器の汚染度は、尿便の飛散等もあわせて、実に洋便器の164倍になるという試算も出ております。

また、トイレにおける菌の感染源でありますけれども、タイル張りの湿式の床、それから水栓のハンドルといった、濡れたところに大量の菌が繁殖するということがわかっております。

このようなことから、洋式化と合わせまして、床のドライ化、そういったことも重要な要素であるということが言えると思います。

各家庭でも、現在、洋式トイレにシャワートイレ、要はウォシュレットが主流になってきているのが現状だと思います。このような中で、2015年のデータでは、日本全体のオフィス・商業施設の中では、99パーセントと、ほぼ100パーセントに近い数字で洋式化が進んでおります。それに比べますと、学校は先ほど説明しましたような率になりますので、かなり遅れていることがわかると思います。

次の7ページ以降につきましては、ご説明した内容になりますので、個別には具体的な説明は省略させていただきますが、最後に8ページをご覧いただきたいと思います。

子どもたちの中では、お聞きしますと、学校ではトイレを我慢する、特に、大便を我慢するという子どもたちがかなりいるようでありまして、その原因としましては、家庭ではほとんど洋式になっているのに、学校では和式ということで、そのギャップが原因でトイレを我慢しているようなケースが見られるようにあります。

そういったことで我慢をしますと、腹痛を発症したり、学校の勉強に集中できなかつたり、健康障害を招くような、いろんなことが起こると思います。

教育委員会といたしましても、このようなことを総合的に勘案いたしまして、今後、学校施設の長寿命化の改修と合わせまして、子どもたちが安心して学習できる良質な環境づくりも重要であるというふうに考えております。

そうしたことから、現状の説明、今後の方針について協議をいただきたいと思ひまして、今回提案をさせていただきましたので、どうぞよろしくお願ひいたします。

○佐々木市長

説明をいただきましたので、委員の皆さんから質問をいただきたいと思ひます。

気が付いた点がありましたらお願ひします。

○宮崎委員

今の小中学校の生徒は、生まれたときからシャワートイレの人が多い。

スポーツの遠征先、知らない場所で、和式だと、やり方がわからず失敗する子どももいます。親も気づかない。まさかやり方が分からないとは思わなかった。

ぜひ洋式化、シャワー化についてお願ひしたい。

○河野教育長

教育委員会でも、もう数年来、シャワートイレを含めた洋便器化の話を、その都度出しながら、完全に整備するまでには、なかなか経費の問題があるので、徐々にしていくしかないなど。そのためには、どこから優先すべきか、優先順位も決めてすべきではないかということで、事務局も進めているところでございます。

戴星学園のように、近年建築をしたところはシャワートイレを付けておりますけれども、今後改修をする中で、来年度から少しだけ思い切って改修をするように予算要求をしたらどうかということで、今協議をしているところです。

○佐々木市長

和式、洋式それぞれ、今の段階であるでしょうし、使い方がわからないという話もあるので、子どもたちへの指導は。

○河野教育長

トイレは生活の中では欠かせないもので、子どもたちにとってはなおさらのことであり、修学旅行で、子どもが失敗した体験も知っています。トイレの仕方は、しっかりと、「わかっているだろう」ではなくて、教える必要があるなということは感じましたし、おそらくシャワートイレにしても、操作の仕方というのは、いろんなところに器具があって、どこを押しているのか分からないようなものもあるようでありますので、なるべく早くそういうことも合わせて指導するような教育も必要があると考えています。

○大嶽委員

ここ数年、子どもたちも家庭での洋式化が進んで、学校に和式の便器しかないので、母親たちも心配して、小学校に上がるときに和式でわざわざ練習して入学させないと不安になるので、「練習しているよ」ということも聞いたことがあります。

ただ、急に練習してもなかなかできないので、洋式しか使っていない子どもは、やはり我慢するので、その我慢が体の変調、勉強に集中できなかつたりするというような話をときどき聞きます。男の子は大便に行くのはすごく抵抗あるので、洋式になると便器は一つしかないの、抵抗なく用を済ませられるということで、そういう意味でも子どもたちが安心してトイレを使えるということにもつながりますので、洋式化で一本化すると安心できます。

一つは、子どもたちにトイレを掃除させるのがすごく苦勞しました。トイレの掃除で心を鍛えるということも確かにあるんですけど、掃除をさせるのも一苦勞でしたので、それが簡単になると、(先生は)違うところにエネルギーが注げるかなというのも感じています。ぜひ、お願いします。

○松田委員

皆さんのおっしゃるとおりです。私も学校に、委員になってお伺いさせていただいて、いろんな状況は、我々が学校に行っていた時と全然違って立派になっているんですけど、トイレだけは昔のまま残っています。むしろ遅きに失したぐらいの議題だと思うので、ぜひこれは前向きに。別な項目で防災の面からも出ていますので、ぜひ予算の確保をお願いしたいと思います。

○高井委員

湿式、水で流すほうは、タイルの目地においが付くと、ここ(資料)にも書いていますが、アンモニアの臭いが本当に強いんです。それを洋式化に変えてほしいと思います。それと学校は、地震や災害のときに避難所になるので、お年寄りとか身体障がい者の方が和式だったらトイレができないというのも、避難所の声として悲鳴を上げているという声を聞いています。洋式ならできるという声もありますので、洋式にさせていただけるとありがたいと思います。

○佐々木市長

いろいろな問題点が出たんですが、市内の学校の全体的な洋式化、ドライ化の普及率は、洋式化に何年ぐらいの計画で完備ができるのか、分かったら教えてください。

○河野教育長

担当を同席させていますので、担当から説明させます。

○馬場（教育庁総務課総括主幹）

教育委員会総務課の馬場です。ただいまの質問でございますけども、事業費については、全体的な把握までには至っておりませんが、参考までに高田中学校の生徒用のトイレ、男子トイレで小便器が5基、それから大便器が4基ありますが、そこをドライ化をしますと約600万円かかります。3階建なら男女それぞれ×3になりますから、その倍数だけ事業費がかかってくるということになります。一校で見ますと、やはり1,000万円、2,000万円単位で事業費がかかってくるのではないかと思います。

ただ、一番高田中学校が規模が大きいものですから、最大でその程度かなと思っています。部屋の構造とか、そういったところでも差異が出てくると思います。

現状については以上です。

○佐々木市長

全体で、洋式の普及率は何パーセントぐらい？

○馬場（教育庁総務課総括主幹）

小学校で約50パーセント、中学校で約32パーセントです。

高田小学校と桂陽小学校については、耐震補強工事の際、トイレが老朽化していたので、ドライ化と洋式化は完了しています。シャワートイレは整備をしていません。

そのほかについては、多目的トイレ、特別支援用トイレは、洋式の便器が設置されています。以上です。

○佐々木市長

洋式化だけでいいのか、シャワーが付いたほうがいいのか。

○大嶽委員

やはりシャワー付いた方がいいと思いますが、費用がかなり違うんですね。

○馬場（教育庁総務課総括主幹）

現在、洋式化をしますと、基本的にはパッケージになっていますので、シャワートイレは

水道とつなぐ工事が若干出てきますけれども、金額的にはほとんど差異はないと聞いております。

○佐々木市長

これから作るものは、シャワー式をお願いしたいなと思います。ただ、休み時間などトイレが集中した場合は、現行の5基ぐらいで足りるのか？

○松田委員

洋式化は小便器をなくすということですか？

○馬場（教育庁総務課総括主幹）

補足させていただきます、先ほどは、男子トイレの例をあげましたので、女子トイレの場合は男子トイレよりもだいたい倍、10基近くあります。

○河野教育長

文科省の設置基準がありますので。

○馬場（教育庁総務課総括主幹）

時間が集中するのも含め、文科省もそういったところを算定して、トイレの数とか子どもたちの人数によって基準がございますので、その基準に基づいて設置しておりますから、現状ではうまくさばけていると思います。

○佐々木市長

文科省の基準は基準として、学校現場で、子どもたちに、不便を感じますか、時間待ちがありますかとか、一度、豊後高田は豊後高田で聞いてみて、また、我慢をして体調を壊すということも、内部の調査をしてみて、その問題もできたら解決していく方法もいいのか。

○佐々木市長

ほかにありませんか。

○佐々木市長

これは補助事業なのかどうかすぐ判断できないんですけど、3年ですべて整備できるというのであれば、1年で3年分を先にして、来年、再来年はもうしなくていいわけで。

補助事業であれば国、県が決められたものしか予算を出せないという3年計画とか5年計画とかになります、市の単独事業であれば、一気に1年でやっつけてしまえばいいのでは。

○佐藤（市総務課長）

国の補助がなくても起債の問題もありますので、その枠の問題のほうがあるのではないかと思います。

○安藤（教育庁総務課長）

学校施設の環境改善交付金という国庫補助はあるんです。3分の1補助に基本的になっているんですけど、その中に大規模改造のトイレ改修というメニューはあるのですが、なかなか国のほうも思うように予算をつけてくれないのが現状です。

○佐々木市長

3年計画でやる事業を、1年でやってしまっ、国の方も先行していただいて結構ですよ。その代り3分の1は3年計画で、予算は国から降ろしますよと、前倒し制度は、自治体が先に整備をしてしまっ、あとの3分の1の補助は、後年度に国が間違いなくくればいいが、勝手に3年分を一気にしてしまったら認めないというのであれば、そこは融通がきくのか？

○佐藤（市総務課長）

枠の問題ですから、次年度まで約束してくれるものでもありませんので。

○佐々木市長

余計要望しても、要望ほどはくれない。

○佐藤（市総務課長）

国の予算の中で配分ですね。

○松田委員

単年度で、毎年申請しないといけないわけですね。

○河野教育長

特に文部科学省の予算というのが、当初予算よりも補正予算のほうが増えるわけですね。おそらく補正予算はどちらかというと、政策的な予算付けになっているだろうと思いますので、大分県のまたそこで枠も決められて、あらゆる施設整備に係る予算が文部科学省のほうにあって、そしてそれを認めるか認めないかということで内示があるわけですが、具体的にはこれからですので、市長のほうにもお願いをしたいと思います。

また、具体的に陳情書などつくってお願いできたらと思っております。

○佐々木市長

最終的には予算の問題で、要望や取組は理解はできるけど、枠で決められて最終的には配給みたいな状態では、この問題の早期解決には、50パーセント、32パーセントでは、まだまだ道は遠いね。

○佐々木市長

何か方法を、皆さんの知恵をお借りして取り組まねばならない問題かなと思います。ありがとうございます。問題がさっと解決ができないのは残念ですが。今のトイレの関係は、そのようなことでよろしいでしょうか？

(了承)

4. 意見交換

○佐々木市長

それでは、協議・調整事項についてはこの2つであります、これ以外でも、学校や子どもとの関係で何かございましたら、何でも結構です。

○大嶽委員

最近、市役所の職員さんも学校の教職員も、勤務時間に対して健康面から取組をされていると聞いていますが、市役所も19時までには、残業を終えて帰るという方向になっているんですかね。

○佐々木市長

教育関係は、放課後、部活もろもろがあってそこが非常に難しい。ただ、働き方改革で、一般事務のほう（市役所の職員）は、残業で遅くても18時までに終わるようにということです。何割ぐらいは18時前に帰っている？

○佐藤（市総務課長）

帰る時間の何割かはよく分かりませんが。前が遅すぎたというのはあると思うんですが、市長が就任されてから強く帰るという指示は出しています。昨年比で2割ぐらいは削減しています。特に、水曜日のノー残業デーのときには、ほとんど18時ぐらいには帰っています。

○佐々木市長

私が18時前に帰るときに、1階のシャッターが全部降りていたら、みんな帰ったんだ、うれしいなと思っています。

従来の仕事に、新しい観光拠点づくりと、人口増施策と、住宅団地づくりも、メニューが別にプラスアルファが付いているんですよ。それで残業しなくて、しても18時までですから、それで仕事を消化できているから。そのときに、もしできないのなら、決裁事務を、担当から係長から補佐から課長の判は、課長1個の判にやめたらね。判を1個押すのにも同じ文書を読むでしょう。結構時間がかかるんですよ。時間が足らなければそれをやめようよという話もしたんですけど、それをしなくてもやればできるんだなと思ってね。

19時、20時になって帰るとね「子どもと食事をしたことがありますか」と聞いてなかったら、そんな生活が正しいのかと。

子どもも大事だが、教える先生方が体を壊したら何にもならないんで。そういう環境づくりもやらなければならないのかなと。ただ、改革できない部分があるのは、祭り行事が多いんですよ、そのための職員の準備、有休も取れないのが現状だというのも小耳にはさんでいますし。

この前国の選挙がありましたね。職員の大部分は選挙事務に張り付いているんですよ。

そこに台風が来たんですよ。ほとんど職員は残っていないんですよ。ある市は被害が起きて、応援に行くといっても。選挙が大事なのか、災害対応が大事なのか。日本全国、選挙事務は職員が中心に張り付いているんですよ。日本全国が麻痺するんですよ。

ということで、我々も職員の健康を、教育長は教職員の健康をしっかりと守ってあげて、先生がダウンをしたら、おそらくサブの余裕はないと思うので、先生だけは病気で倒れることのないように。倒れたらそれだけ子どもに指導が届かないという。

○松田委員

職員の方も教育委員会も含めて、全力でやっていただいていると思います。働き方も考えながら。いいことだと思います。ぜひ続けていただいて。

○佐々木市長

そのほかに何か。教育長どうぞ。

○河野教育長

「子どもの人権を守る、尊重する」という立場で、大分県内でも教師の体罰事案、いじめ事案等ありまして、こういうことの根絶に向けて、今、私どもも最大の努力をしておるところであります。あわせて昨年は、ヘイトスピーチ解消法、障がい者差別解消法、部落差別解消推進法という重要な法案が出た年でありました。今年度は、具体的な法に則って、学校現場の中で子どもの人権をしっかりと守るという立場で、現在いろんな取組を進めているところでもあります。教育委員会でも、委員会のはじめにこの話を進めているところでもありますし、学校現場でもいろいろな取組を具体的に進めているところでもありますので、市長にも報告をしていきたいと思っております。

○佐々木市長

それでは、皆さんの貴重な意見もいただいて、有意義な会議、議事運営ができたと思っております。私の役目を終わりにさせていただいて、事務局に進行をお返しします。

5. 閉会

○佐藤（市総務課長）

皆様、大変お疲れさまでした。それでは、以上をもちまして、平成29年度第1回豊後高田市総合教育会議を終了いたします。

（終了）